

日向群における地獄檻型囲いわなの使用について（伊勢原市）

1. 囲いわなを追加する理由

日向群は、適正規模である 25 頭とするための群れの縮小を目指し、個体数調整を実施する必要がある。しかし、日向群は発振器の未装着な状態が約 2 年続いていた。その結果、追い上げ・追い払いも十分に実施することができず、人慣れが進んでおり、通常の捕獲檻ではコドモしか捕獲できない状況である。スレ個体や加害個体を捕獲するため、捕獲檻を踏み板式に改造したり、イノシシ檻をサル用にしたりするなど様々な方法での捕獲を試みたが、現状、なかなか捕獲が進んでいない。そのため、個体数調整のための捕獲を実施するために、新たな手法で捕獲を実施する必要がある。

伊勢原市としては、その新たな手法として、次の三点の理由から地獄檻型囲いわなを採用したい。

- ・箱罟への警戒心が強い日向群に対し、従来の横向きの開口扉での捕獲方法ではなく、上部からの侵入という新しい捕獲方法であること。
- ・くくりわなのように直接サルを傷つけることがないこと。
- ・捕獲個体のうち、加害個体として特定した個体を優先して止めさしできること。

なお、今回設置する囲いわなは横向きの開口部も併設されており、今後はサルだけでなくイノシシ、シカも捕獲する予定である。

2. 捕獲、監視体制

餌管理は市と地権者で管理を行う。

1 日 1 回の見回りはサルパト、地権者で行う。

また、1 日 1 回の見回りだけでなく、かながわ鳥獣対策支援センター所有の通信センサーカメラを用いて市が常に監視をする。なお、通信センサーカメラの設置運用については同センターの協力を得る。

3. 囲いわな設置予定場所

日向、洗水地区 岩田みかん園付近

4. 使用する囲いわなの規格

- ・寸法（約）：W 6,060×L 5,150×H 2,600(mm)（誤差：±50mm）
- ・型：組立方式（全面金網）
- ・金網：本体 5×50×100 (mm)
- ・天井：地獄檻方式 サルが上部から侵入し下から逃走は不可な仕組み
- ・落とし扉：扉は幅 2,000mm 以上としイノシシ・シカ・サルの捕獲が可能なこと
- ・人用入口：1 か所
- ・底：逃走防止用底パネルが施工可能なこと
- ・仕掛け：蹴り糸方式

5. 考え得る問題点とその解決策

- ・まとめて捕獲された場合に、個体の識別が必要。

→檻の中に、小さい檻を入れ識別や処理を容易にする。麻酔が必要な場合はかながわ鳥獣対策支援センターへ依頼する予定

- ・見回りの体制が不十分であると、サルの自傷行為や別の個体への加害行為の可能性がある。

→1 日 1 回の見回りだけでなく、通信センサーカメラを用いて常に監視する。